く提案テーマ1>各機能の関係性を考慮した分かりやすく、利用しやすい配置計画について

# 『世田谷リング』が区民・職員のコミュニケーションを深める



各機能の規模の確保と各機能の独立性と関係性のバランスの確保

#### 11「世田谷リング」を中心に各機能を連結する 中央の広場を囲むように本庁舎・総合支所・区民 会館をリング状にバランスよく配置し、広場に面して

- 窓口・待合・相談スペースを集約します。 ●広場・2 階テラスから全棟が見渡せ、繋がることで、
- 来庁者・職員共に分かりやすい配置となります。 ●1、2階に区民交流機能・区民協働拠点を集約し、 来庁者が訪れやすく利用し易い設えとなります。
- 総合支所は、現在と同じ西1、2期ゾーンの1、2階に配置 広場に面した明るいオープンな窓口とします。

# 2 区民に開かれた議会、区民自治の意識を高める

- 議会部門は、東1期ゾーンの 7~10 階に配置し、 独立性とセキュリティを確保します。(平面図参照)
- •9階議場は、床段差のないつくりとし、議会閉会時 は、区民の多目的利用が可能な議場とします。
- 7~10 階の眺望の良い西側にロビーを配置し、 区民と議会の接点の場を設けます。

◇日常的な憩い・交流と災害時の活動を両立する広場

### 3 「世田谷リング」の日常利用が災害時の安全性を高める

- 広場と2階テラスは、散歩や、「新年の集い」などの イベントの場として利用できます。日常的に馴れ 親しむことで、災害時の避難が円滑に行えます。
- テラスの軒下は日影や雨除けの憩いの場として日 常的に利用でき、災害時は雨に濡れない物資搬入 や避難・救助スペースとして活用できます。

敷地周辺の大学などの施設や住宅との関係への配慮

# 4 緑地・広場・ピロティで地域とつながる

東西南北の各方面に緑・広場・ピロティを設け、 視線や騒音を制御しながらも、どの方角からも 自由に行き来ができる計画とします。

# 低層型庁舎が防災性・連携性・可変性を高める

災害時の周辺施設との連携

### 1 新庁舎全体が物資・情報供給拠点となる

<提案テーマ2>災害対策機能を備えた庁舎等計画について

- 広域避難施設の国士舘大学をはじめ 全区域に、支援物資の供給や安否・避難 情報を提供する拠点として整備します。
- 中央の広場は、約4,500 m確保し、緊急 車両(自衛隊・警察車両56台)・物資 供給車両スペースとして活用します。

災害時の各諸室の機能性

# 2 低層階全体が災害対策施設に変わる

- 東2期ゾーン1階の区民交流スペース (約 1,700 m)は、移動間仕切を設置し、 災害時に災害窓口や安否確認場所、一時 避難場所に転用可能とします。
- ●区民会館の舞台・楽屋(700 ㎡)、ホワイエ は、物資受入や荷捌きのスペースとして 活用します。
- 低層化により、エレベーターが停止し ても上下移動が円滑に行え、災害業務、 救援活動が安全かつ迅速に行えます。

災害対策本部のレイアウト、区画への配慮

### 3 3 階ワンフロアに災対機能を集約するエネルギーは機械を

- ●1期工事で、災害対策本部を完成し、 工事中でも災対機能を継続します。
- 首脳諸室に隣接して災害対策本部室 (庁議室)・災対各部・無線室等を配置 し、迅速な指揮系統を確立します。
- ワンフロアで集約し、独立したセキュ リティ区画を行います。
- 総合支所災害地域本部とは、2 階で接続 し、連携を強化します。

-西2

協働利用





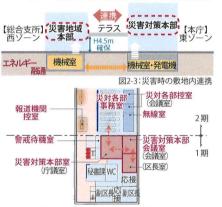


図2-4:東ゾーン 3階 ワンフロアで災害対策本部機能を確立



